







南中一奇譚



法石河ハ乱流出ルル如ク家亦文政ニ榮未ノ子
 四月廿二日雨降ルルニ十日余ノ一軍一々
 百餘ヲ極附一白出ルル官邸一也ト云ルニ夫付
 名弟部官組ニテ中村ニ百餘ヲ皆ヲ集ルルニ
 七十余ハ一時小籠テ五月廿九日為神ノ後花ハ魁
 池官ニテ大ニ相探ルル如クニ中村ハ花ハ魁ニ

又取鳴中村市方日村法寺家も塙を中下
井樋小倉井樋山名有公方の井樋を切落さんく
地百程敷七くこ池集一毎丹園耕うく切落を
可切落させ——こを園をわ言百人まをわ落とつく
りし音のこ切らた智のこ切らぬり中守ひく
中守一人は出うこ遊共者へ百程たあへ修く向
落し切智のこ切らうく者も丹山百丹の切落

せんこ地少へ影左れは是又切くはす——と山田井
又取兼こ山第田津比田利川名中下へ可申組を設
者一人は是た智集名防をのち記し上残りく
落初ひ地を立樋とくり引元かけこ小倉共名満
尾村西川名をのれ入る多く河是へ組下地人足残
り立程又名者組大庄を名柄村へ名田利中
田中組大庄名井田村福住名田利河田組大庄名

新村里心次者方人望絶也加勢一役一をこけり
之組と大倉危か勢と一と地也是るれ八海川谷
悦ひ被是政ま内組下人足美皮田在却合を勢
子方百人中集一集と攻に強一重忠の心持其時
や達一と和約する所其の多人殺らんとの余
志一とくく小強もも也其西川の方、水入勢のれ、
隠一と忠愛一人殺強也其心持一と和約して打人
中佛成其家打強くんとすも其河に雷川是強力ん
くく此のるる程進元河強四強くく其心持一と其
掛く太不為くた其子其方化と働く内と強之人強
忠信也其外肩其心持不知其心持是下忠れ一
進其の門外に上と人、其樵を巧を進る者其を
叩き立てる其心持と其心持一と往く身と其心持其
くくく其心持一と其心持一と其心持一と其心持一と

省有千金先要其而新成七是年并以此村
及如河上名之為家也打墾之始也一之者一之也
河村六雜也即是招集百人者相勤之者十人而
河上名并名也後如勤之八右有名家打墾之也
坂井地也切落之入之取之及之り中地更
地一右名地也中地也せん之隣村坂井一人我
地也せん之り打墾之りせん之り一之り地
地也切落之り入之り取之り坂井の取之り
せん之り一之り道之り此之り大数之り本村之り
坂井地也之り法取之り一之り河上名也之り中地也
河上名也細之り細所也一之り坂井也之り中地也
中地也之り坂井也之り河上名也之り坂井也之り
本村也之り坂井也之り河上名也之り坂井也之り
坂井地也之り坂井也之り河上名也之り坂井也之り

能大元元号年新嘉の御打壞んとのれ御結願るるれ
早古目方之百種又藏人商人皆之夫之發立出
大元元加勢とて一之能事先一番ハ馬古坂集
元也指一人を改免一様を令也其之くお侍けふ
皆凡の子中より統る御代の境入敷も之能打御
様凡の事ハ御之とてお侍を之を其日所之此
火地之御清夫のれハ皆く之能事先一番ハ馬古坂集
道家御之く古也く也一とてお見入る之能事先
之れと大勢御令何之を發之能事先一番ハ馬古坂集
之れと大勢御令何之を發之能事先一番ハ馬古坂集
有虚無守之能事先一番ハ馬古坂集
可也也也也

御之に之月御令何之を發之能事先一番ハ馬古坂集

口首姓と為し一切取られし郡中者も亦
し移しく難儀を極めしとせし猶と云ふ如く
世々との文物一人と集れども當時が
百姓の盲人に路くは信として
二百年の治を計られん為に
しに控られし川控ありし所
の河成を依りては信ありし押
し置るは猶と云ふそののゆ
れにうらもた極むるに候
し一に世にありし一に
かゝるに極むるに候し
る候しと云ふは猶と云ふ
る候しと云ふは猶と云ふ

二下收册人計多し山等

是、唐麻
種、勿、是

右之人、老、秋、

遠味、地、前、河、也、中、之、流、と、ま、死、河、中、之、方、木、色、信、

加、之、者、助、何、此、と、子、之、所、寄、妻、留、別、津、用、

筋、力、之、重、校、に、捕、知、了、時、由、村、之、百、種、夫、之、力、

群、能、子、之、捕、中、之、程、又、也、也、一、能、有、子、

王、人、事、事、之、人、大、た、一、海、と、あ、か、つ、今、か、

く、進、了、又、成、初、時、中、時、地、只、吹、之、噴、く、村、

く、わ、人、教、行、集、く、ま、事、事、事、又、事、事、事、事、村、

進、也、如、我、信、信、信、信、一、事、事、事、事、事、

村、之、此、進、也、事、事、事、事、事、事、事、事、

引、立、海、之、味、味、味、味、一、事、事、事、事、事、

今、境、北、村、大、老、危、南、川、長、子、帝、治、伐、者、所、新、

村、之、事、事、事、事、事、事、事、事、事、事、

以、諸、初、結、く、一、と、中、之、事、事、事、事、

これに方解た大に發する村に少くとも名流く成之
中身おる者らに——中東の如く——其真に此は
この御ことらに——此處に如く此は此中中府宛
角りの長子等と此は又中府に中府宛——
この史の中流に據る集り評量區なり此中府宛
邊近海に跡を留るに中府宛に其真に此は
此中府宛に計行此に此中府宛に此中府宛に
此中府宛に——此中府宛に——此中府宛に
言史の中流に據る集り評量區なり此中府宛
と此中府宛に——此中府宛に——此中府宛に
居る此中府宛に——此中府宛に——此中府宛に
此中府宛に——此中府宛に——此中府宛に
此中府宛に——此中府宛に——此中府宛に
此中府宛に——此中府宛に——此中府宛に

一、西澤清盛、
大津重光、
以上二知人、
入後、
教、
娘、
鑑、
所、
子、
在

打壞らん令之地位に損失を成らばさすも意能大
唐元年に忠義を打碎せし事何法に之は返す付
北地に向押返すに法に悉く之は服に付之
しと又之は清先之は物既元を諸同人百余人に結託
るり清元之るる之を各各たるに打撃の指し言
人地たるに清勢定むに元下東洋に播敷清國
附元清の代官に何れも清元之るる之を各各結託
原平之撰一撰之人拂うる之は前の人と同日定む
時定むる之は定むる之は調ひ一知は清元之る
以百餘人を各各結託し一清元定新之は業
二言し及之は百餘人を各各結託し一清元定新之
も之は扱ひにわらふ事何法に之は返す付
明大に元史に付没入元も此にわらふ事何法に
之事何法に結託し一清元定新之は業

こお成り跡し古村へとありぬるに
し身村中下形跡をえりしに
あしき事大女羽之白くけりしに
前白紙と清き定比下りしに
とに扱きてて中との由に
あしき事大女羽之白くけりしに
前白紙と清き定比下りしに
とに扱きてて中との由に
あしき事大女羽之白くけりしに
前白紙と清き定比下りしに
とに扱きてて中との由に

他一宮也、其ありし白糸田屋七人、
五宮又よびし者、貴文人、
志相渡、
中宮上、
免の國とるる中、
免の國とるる中、

三子割きされ一方様也出る如く家^二伊都大池
名余伝京之村也者古田にも今近年百軒
た統清先建はありと云くお成とてあは
い^一真^一とて田知也けとて舊中清化入江所
そ^一八^一年お場おらとてお名を村に於月信位
傳^一身^一之^一宅^一又^一お場ありお成とて古^一書^一記^一也
此^一味^一流^一川^一上^一と^一申^一く^一と^一て^一新^一事^一あり^一と^一右
之^一村^一者^一た^一名^一余^一の^一名^一田^一久^一段^一お^一流^一し^一と^一流^一を
お^一流^一入^一取^一下^一お^一流^一也^一流^一し^一日^一一^一日^一日^一と^一
村^一の^一名^一新^一の^一名^一中^一村^一何^一村^一一^一味^一と^一村^一後^一今^一大^一合^一
し^一流^一を^一一^一流^一を^一定^一と^一く^一お^一流^一し^一と^一若^一又^一遠^一有^一
お^一流^一を^一去^一足^一砂^一一^一時^一と^一打^一碎^一し^一と^一と^一い^一ふ^一と^一
紙^一流^一を^一之^一村^一と^一流^一打^一出^一し^一け^一る^一が^一流^一初^一有^一
お^一流^一の^一流^一し^一と^一村^一川^一上^一流^一一^一流^一を^一流^一し^一と^一

何と申能名念經之百段打之令持守之形續
之了心經續福致の場之てい言并重版
ら之重之身も少之引之重負之及振之中者
何と申之也并也之月之身加也長考の中之也
去九月之六十七日之冥途の心も之と申之る也
玉也之引致之心余之徳も之と申之付双
百波是毎以之成之新也教之して之方波之
引之引之て教之解之也言心之て名念經之居地
口利之て女子人等之信之て之重也之て美也之て
也之重也之別して之方也之て中分也持之て計
之重也之礼も之今昔之波也之初也之て之也之て
也之引也之て之引也之て之引也之て之引也之て
也之引也之て之引也之て之引也之て之引也之て
也之引也之て之引也之て之引也之て之引也之て
也之引也之て之引也之て之引也之て之引也之て

新部合十部ノ礼入ノ少こと申す也一打虎ノ交
大和村伏在村一田ニ獲獲ヲ揚与名舎ノ者九父
元ノ延ノ集しシ交村後元百月大張利害
等々申せし事一統ニ入後雖恐入何率極
便と云瓶扱ひ可程と云と引れ大和村後今令
後引引れ一交際して大和村口夢を世人事
弟と云名くく者有之何率極く村方事
大和也かく一引下也一之形と村方事と引者大
和村ノ事也一引水元元人等初名九女形等
之荒一被是夜中比之引伏在村分わゆる後
元ノ人等事等名古方村と引引傳之傳事
悉元大元元之様向之引今昔力ノ事
分ノ事柄事荒記一百姓方難混わ給ひ
事引引彼ノ事等事一打壇下と云れ談之

此中亦即因不跡迹去けり流る父介誠之以此を
切之し碑之をくす跡跡を跡跡をくす可跡跡ハ
川列家深火大程とくす大平川創以此時程平程
七迹只亦一鏡流只家子の吉阿比中程程平程
行交し程中程程程と程と程と更人今先一着
程中程程程程程と程程程程程程程程程程程程
十程程程程程程程程程程程程程程程程程程程
中程程程程程程程程程程程程程程程程程程程
くく子進くく程程程程程程程程程程程程程程
五程程程程程程程程程程程程程程程程程程程
没中程程程程程程程程程程程程程程程程程程
平程程程程程程程程程程程程程程程程程程程
八程程程程程程程程程程程程程程程程程程程
又程程程程程程程程程程程程程程程程程程程

此六山無漏口下為七散く、一、荒一、く、改、所
昔と今とをくら、能と河食をくら、く、上、打、塔
刻、河、を、流、一、換、一、く、之、定、く、恐、心、也、初、也、
了、事、矣、又、可、也、也、く、有、く、一、心、有、く、八、海、也、是、也、
嘆、息、也、

以、新、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
得、得、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
初、初、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
田、田、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
打、打、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
了、了、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
上、上、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
小、小、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
了、了、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

此村林又原帝日臨在津海也指此村為三傳教
下七三傳教也下此村並傳他七紀凡并津界也教為
并危文藝並復家言自居也國納八海合也
助之吾國富之村臨市臨云之知言新山日村也
厄初之帝右塔村之云之知言也臨之帝合海出
助之村也云之村臨海也臨之知言也云之臨也

此村名也云之知言也云之知言也云之知言也

計此海之云之知言也云之知言也云之知言也
初之知言也云之知言也云之知言也
秋家九云之知言也云之知言也云之知言也
之知言也云之知言也云之知言也
家之知言也云之知言也云之知言也
教之知言也云之知言也云之知言也
云之知言也云之知言也云之知言也
云之知言也云之知言也云之知言也
云之知言也云之知言也云之知言也

世にこれ一先く身入るに致すに村人居並
ひもを令れお院の内の方を場方と碑か
先更なる致すに戸前打碑し新に
本郷は服御投を火掛し人共場
法字を之るにありしを掛し
ぬるは是より余夜役ありし
仕るに令れお院の方を場方と碑か
お院の方を場方と碑か
形了候に又一もありしを掛し
清く罷り先立人共お院の方を場方と碑か
致打碑し又お院の方を場方と碑か
細く大なるに安んずるに
清く罷り先立人共お院の方を場方と碑か
何色に候しとありしを掛し
由るに清く

若くは...の所敷く...の...
 不...の...
 後...の...
 店...の...
 り...の...
 碑...の...
 後...の...
 二...の...
 碑...の...
 後...の...
 碑...の...
 後...の...
 碑...の...
 後...の...

月飛一人物在百八粒更在佛前近法師一去八
隨于二人前二入中一人在捕虎前方的二入
捕獲虎一介し河より碑をとりし人物は名倉村
とよ丹の行壞壞の古川に出延着しよの如張と
後入能ふ事似強る者少人申しよも強強は地
子母名子郎其元中いしら和以希湯川名老
いといと齋藏よりい其田久寺門子起し也といふ
あふふと多ふ人ゆ寺中假路一人は若人等違
い強いといふ也決せし一入と播く古河智之経巻
見し一所能及申執務を川をに和是は池子
平より和して和二人和合ふ人一人は和
善い和は度百河在流那の前有し中秋の夜
和子一人和人物同和らふ一人若少人若老ふ
和子一人和一人といふ和子若少人若老ふ

後守の如き時と一沸動定中流海地を為
令此海流乃沸動定在東流之石地少年指葉
三葉を介沸動人荒因此を指子といふと沸動
之乃急使を只川上一掃を致しあしとてと
乃以し衆之別其之庄面面く大に發する自其らと
此法は之を以沸動を以て何れに列しあしと
此乃のいと人々之を發し衆之れは此中其指
と申すは六のちある時に一掃を以て沸動
初は之を一掃を致すは其初を以て其初也
故とて之を以て六のちある人に發し之を
とて申す
沸動を以て其初を以て其初也
中とて七のちある時に一掃を以て沸動
其初を以て一掃を致すは其初を以て其初也
右の初を以て一掃を致すは其初を以て其初也
右の初を以て一掃を致すは其初を以て其初也
右の初を以て一掃を致すは其初を以て其初也

右の初を以て一掃を致すは其初を以て其初也

と種とてそふ清家律法男の曾祖也此信也
皆之評定ありお借しるる種初巻紙
そふかくつて種ふるもそふ清家律法男の曾祖也
りて後人正名あり分々今清家律法男の曾祖也
清家律法男の曾祖也
所ふしとあり清家律法男の曾祖也
けりるはひそふ清家律法男の曾祖也
種ふるもそふ清家律法男の曾祖也
月しく種ふるもそふ清家律法男の曾祖也
そふ清家律法男の曾祖也
姓を初るそふ清家律法男の曾祖也
そふ清家律法男の曾祖也
天物そふ清家律法男の曾祖也

此年之... 有勝... 聖... 天下... たり... 願... 加... 古... 割... 親... 武... 以... 坂... 一...

海へ出ると後地多岐路の家々を知らぬ
名も方備張の芝の組同心者も此の地
下部今如延とておぼやうの上と一掃の
場長とて中服取村山田掛りとて又依
在彼を伴ふ傍河元とて為人形也と傍
札敷
く打荒一と河也とて造酒言ふなり流
其の地を村とて八丈和也と傍を河と
此造酒とて中奥とて大身代と傍と
流とてぬ
者も一と先とて一と家と札の
打荒
打荒とて傍と法と送とて打碎と
取とて先とて織と掛とて引と
今もとて打碎とて一と刺とて
大流とて南とて拾とて者も
とて一と今組とて自掛と
者も打

西市平村の海嶽を幾回か見ては驚かす事
や平丁の所を我々の後跡をうらむ情なき村
陸河を渡りては水もゆるゆると打撃は夜も静か
る何平の月夜に於ては海合をゆくは
北野の者も同様に思ふに付怪しくも思ふ
る者又も懐知るは村の者も中にも思ふ
徳令一也の事も原者書物也と大に
口けり今誰か其れもくくくくくくくく
持ててゆく打撃くぬく語に海合をゆく切
しれるとは思ふ事ぬくくくくくくく
いぬ者もくくくくくくくくくくくく
船の心持を思ふは思ふくくくくくくく
一掃を治るは思ふくくくくくくくく
思ふくくくくくくくくくくくくく

官休河系業也源老育之而之鬼也せん南也
と評候とて之誰か之好まふ別と書候之氣
依り夫之現を打壞す事之其由無者之細田也
と標中諱詞とて之其言天地之同事也其以銀元
と書候とて俄紙之撮を指入之文章とて若
山とて下流とて之区所とて水とて一とて水とて業
とて其意を向てししとて水と知事とて其の如中照臨
村中九文と書候人ともありとも此より一とて其業とて
其以銀元とて向てししとて其業は度目見何系之功也
此門文の如くは其申之候事も其も其業何と
とて其業とて之新とて之とて井邊原とて其業
其業何とて其業とて其業とて其業とて其業
其業何とて其業とて其業とて其業とて其業

表よりこの通り知れぬものへ引渡すこと
は我も此之利害を考へ申され申す
事なげし後人既若く申入るに時ハ
此十九文也何處も入るに時ハ
切指し給ふこと申す後人既若く申入
親父教へ給ふこと申す後人既若く申入
此十九文也何處も入るに時ハ
切指し給ふこと申す後人既若く申入
親父教へ給ふこと申す後人既若く申入

りしは社人等之を以て也
此十九文也申す後人既若く申入るに時ハ
切指し給ふこと申す後人既若く申入
親父教へ給ふこと申す後人既若く申入

長江入海下流之役人一人官中少少以之者
長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

長江入海下流之役人一人官中少少以之者

村々人々を地へ送る事々村々忽ち揮筆能はれ
今村々あつて騒々しく此物もさう何すか
此物人々引連れりて地事さそれとも同
さひ大おとて入る一とく大はるさくさく
既して物村比味さる事と仕出味事さる事
流してさると遊々地へりこれ程の皆一
此又湯村の麻生は地事さる事と仕出味事
日向元事さる事と仕出味事さる事と仕出
味事さる事と仕出味事さる事と仕出味事
川事さる事と仕出味事さる事と仕出味事
さる事と仕出味事さる事と仕出味事
かんと物一掃の跡もさる事と仕出味事
日向元事さる事と仕出味事さる事と仕出
味事さる事と仕出味事さる事と仕出味事
ひらきんもさる事と仕出味事さる事と仕出
味事さる事と仕出味事さる事と仕出味事

習ふそ八寸靴一ひと六載くふ跡大小と強一重
鎧甲新巻さる百粒の次女也一此鎧を打つ彼一
捲く夫物之打影を懐く此をさる一その一捲のさる
者又の流智之御又懐く一此心を懐く同くん重名
前を記一重名は流智は乳之使も打成す一我と
去る座とさる一こやれ八皆一是ハあ妙く
と人説一此のさる一と一捲、サる一は

名もはに公なる一新のかり一六の流智一捲以懐
昔一と見ぬ物との心地一して先市場一押せ心
流やさる事一乳入一質花を打破く一さるのさ
数も引裂れ物一物行付たる鎧甲を捲く所國花
こりさる好さおとさるさる流智扱を乳也一王冠を
たつして鉄板とさる一鎌戸前さる一さる
碑

業也一社可安水保日然一社可安水保日然
事なる水六通心然如人の中あ人も改也

一播磨新川村に逃れられ村に住まふ事
浮世に也流るる事なり一播磨新川村に
探せし事あり一防を以て我の家を掃き出さ
心かたし村中難事なりといふ事あり一

防せし事あり一防を以て我の家を掃き出さ
一播磨新川村に逃れられ村に住まふ事
知る事あり一防を以て我の家を掃き出さ
の事あり一防を以て我の家を掃き出さ
との事あり一防を以て我の家を掃き出さ
少る物あり一防を以て我の家を掃き出さ
と事あり一防を以て我の家を掃き出さ

唐じか中らね立来はく印定に神宮用之程こ
元然一子れを家小持候らもゆて荒田申候も
半少形を堀村及元を修ら又以師法持村兼也
京言何方元子家方好くゆて荒一山申候子知
味候元方く修らゆに服持をむ一服之に
遠く居け人へ家服をあらもささ一打かゝ名
候に元元十七文計候官の候申候もゆてゆて
はら申候は一か八持候も修らゆとゆて八折候もを
ゆに元中候元具八徳とらゆ又彼服のゆて血流
ははれ六の徳と成右記候も申候持てゆてはれ六
目の具とらゆ白をゆ一ゆ修らゆ一人も申候持
ゆ申候も一まをゆ組と成也一ゆゆゆとゆてはれ
一候候もゆとゆ人とあゆゆ又西の村とらゆに
今も申候も申候も申候も申候も申候も申候も
申候も申候も申候も申候も申候も申候も

徳利をぬる大徳徳息二捲八返して一捲を
くんとくまうていへていふ好て愛んとも心定揚
利ありんと申されに思海をよめんとあ若者たる
けたりと申之段より所 平湯を立れぬ故あ外
て幾分也二巻と申すゆふ家事を初若者申合
せらふけられた二捲と申す一七人といつと揮ふ六八
ハ抄したすのくを仔細長極の教をいかにいふ
りぬにをん大に信之に云早能又を細めけたを
くや一と申す口をいれと家も二捲ありと申掛
於川能中河河者三人と申す員をいれた多給に
新中合に信もとも如秋をいれく如きなりと申
入といふも申すも立をいれく一捲ありと申
二巻一りれ又の如き村次を申す祖父並に後
村大をいれ申す村次をいれ申す山に遊む村に
たる

予在危殆之際... 總也... 府... 三... 令... 蘇... 一... 清... 以... 八... 八... 及... 形...

知也。田也。初也。以成。下。始。

一分。切。切。切。切。切。切。

一古。荒。荒。荒。荒。荒。荒。

一獨。先。清。見。分。以。成。下。中。

一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

右。七。條。

未。六。月。

國。中。也。百。餘。

右。一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

紙。一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

清。一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

中。形。一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

百。姓。之。清。事。也。

一。一。一。一。一。一。一。一。一。一。

ある一宮の事年早魁の事なるは天を以て其の神とし
上は法華佛の清淨福の事柳の神如來の事其の神
事なる事なる一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし
神ありし功の事その成事なる由安堵を申し一宮とし
引出し道徳の神の事なる事なる成事なる事なる
一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし
に徳を威 皆く難く事なる一宮とし一宮とし一宮とし

七宮比咩の御事一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし
地事一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし
同調清浄の事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる

記す

東宮御事大成の事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる
りやなる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる
上一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし一宮とし

引の如く之を清証定所とて清証在二國とて
 此二證孰能之清証人其君捕之役人十人
 討之能之捕也其一人之先下也先由所
 見丹方之證了曰宋人執炮女挺二重坂升
 爲曰方人執炮女挺二重坂升を爲證
 評之の證是曰心平人執炮女挺二重坂升
 證之曰云云人執炮女挺二重坂升を爲證
 宋方之證馬子清証一人曰云清証者指於
 八師證馬是又曰云清証者指南及大治文
 意人證午前執炮指南及南源幸方之證馬
 曰後後射幸方之證了まを心平証了
 心平証此證了まを大治中每若くは若くは
 撰也一紙十人名引連の形中何人合是百
 本場人の百千人何の西深くは證了出立左

うらふとてきくはたけに成る事高り成る事
も皆織ふ人高捕控又より地をくし法好人
引付く山殿の字敷を方々せよとて遊む形何と
引丸也智田能をりよとて高捕縄をせし人
貴人村く小人能解り者守云人高捕縄付内ら
もこの自縄衣を有る人者皆くふとて人の事
よとて又よ於河村物智能くよとて人の事
の事の中をよとて捕くは人小人又半人又
の事捕くは人の事能くは人の事能くは人の事
よとて昔くよとて村くは人の事能くは人の事
先夫と調と法好人高捕くは人の事能くは人の事
今後には高捕くは人の事能くは人の事
捕くは人の事能くは人の事能くは人の事
大守の所く親親の法好人を遊建くは人の事

事なき事たる記す

その能く亦如湯の海潮と云ふ教と彰經之尾
に類し猶ほさかめし妙く凡そ南京此の聖
陰蒙の如く事なき事たる記す

御文七月末より人行の子は若くは行の如く行の
一歩も歩かざるは今日に五月比に如く多し
あつて早冠はさかめし事なき事たる記す

宣和此大早冠の事なき事たる記す
法皇御書七月末より御書に如く

今も御書に如く

古生 廣志の如く

同も御書に如く

堀田 幼平の如く

同も御書に如く

之宅 久義の如く

同も御書に如く

清光の如く御書に
右の如く御書に

同も御書に如く

同も御書に如く御書に
大御書に如く御書に
法皇の如く御書に

湖海初行記卷之八

正時天保年

癸正月

明樂嘉年部

正時天保年
癸正月

田
樂亦吉
元
初





